



ヨゼフ アベイヤ 司教認可 発行所 福岡教区本部 福岡市中央区浄水通6-28 発行 人 カトリック福岡教区 編集人 山元 真 TEL 092-522-4059 FAX 092-523-2152 振替口座 01760-6-20729 カトリック福岡教区 定価 1部70円

5月の意向

【教皇様の意向のために祈りましょう】 【教皇の意向】 教会の諸活動と諸団体 【日本の教会】 子どもたち

2023年10月/2024年10月 シノドス(世界代表司教会会議) 聖母マリアの月にシノドスのために祈る

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教

教皇フランシスコは、聖母月の最終日5月31日(水)に全世界のマリア様に捧げられた教会で、シノドス(第16回通常総会)のために祈るよう呼びかけている。福岡教区では5月28日(日)に、各小教区のミサの拝領祈願の後に「シノドスのための祈り」と「アヴェ・マリアの祈り」を三度加えて祈る。



ローマのサンタマリア・マッジョーレ大聖堂で祈る 教皇フランシスコ

5月はカトリック教会で伝統的にマリア様に捧げられる月になっています。全世界にある数多くのマリア様に捧げ

られた聖堂に人々は集まり、巡礼が盛んに行われます。フランスのルルド、ポルトガルのファチマ、メキシコのグアダルーペ、マニラのバクラランの絶えざる御助けの聖母等です。イエスの母であり、イエスの忠実な弟子であったマリアの姿を思い起こしながら、信者は、こういう巡

礼地に集い、いただいている恵みを感じ、マリアの取次を願って、自分の家族やすべての人々の上に神様の祝福を

祈ります。それによって、一人ひとりの信仰が深まり、イエスの弟子として生きる決意が強められます。 教皇フランシスコは、今年5月31日に全世界のマリア様に捧げられた教会で、現在、カトリック教会を取り組んでいるシノドスのために祈るよう呼びかけられました。初代教会の歩みを支えたマリアに、私たちのシノドスの歩みを支えてくださるよう祈るためです。

2年前に始まったシノドスの歩みは、三つのステージ(各小教区、各国、各大陸)を経て、今年10月に全世界の会議にたどり着きます。ローマで全世界の司教の代表者は、信徒、修道者、司祭とともに、今までの歩みの中で浮かび上がった様々な課題や夢をしっかりと受け止めて、これ

からの教会の在り方と活動について話し合います。その識別の結果は、また、様々なステージで確認されてから、2024年にもう一度ローマで会議が開かれる予定です。それらを踏まえて教皇様は、これからの教会の歩みを方向付ける最終的な指針を発表することになります。

長いプロセスですが、皆の参加が求められているからそうなっています。私たちは、福岡教区で、このシノドスのプロセスを教区の「宣教司牧方針」と合わせて行いました。その中で気づいた点を、私たちの提案として世界のシノドス事務局に送ったのです。四つの気づきでした。

- ① 現実の中で信仰を振り返り、教会の在り方を見直すことの大切さ
② 小教区におけるリーダーシップの在り方の見直し
③ 識別の基準を明確にする必要性
④ 信徒、修道者、司祭、司教が、それぞれ与えられた使命を再認識し、皆が協力すること

聖アウグスチノ修道会 日本の殉教者地区 司祭叙階式
カテドラル大名町教会に於いて、桑原篤史助祭(福岡教区・黒崎教会出身)の司祭叙階式が執り行われます。
桑原助祭がキリストの愛の奉仕者として神の恵みのうちに成長できますように、祝福とお祈りをお願いいたします。
受階者: 桑原篤史助祭 (聖アウグスチノ修道会)
司式: ヨゼフ・アベイヤ司教 (カトリック福岡教区・教区長)
日時: 5月27日(土) 11時より
場所: カテドラル大名町教会・大聖堂
※叙階式の模様はライブ配信されます。
下記福岡教区ホームページ URL
http://fukuoka.catholic.jp
または、右記QRコードからご参加ください。

世界広報の日・献金(5月14日復活節第6主日)
「世界広報の日」は、第2パチカン公会議で定められ、1967年以来、毎年、特別のテーマが決められ、教皇メッセージが出されます。私たちが使命である福音宣教において、とくに新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、SNS(ソーシャルネットワークサービス)などの広報媒体を用いて行う宣教について、献金を捧げる日です。
今年の教皇メッセージは、教区ホームページや上記QRコードからご覧いただけます。

では、福岡教区で、5月31日の教皇様の呼びかけにどう応えるのでしょうか。
31日は水曜日ですが、5月31日は水曜日です。その前の日曜日(5月28日)の各小教区のミサの中で、拝領祈願の後に皆でシノドスのための祈りを唱えることにいたします。それに三回の「アヴェ・マリア」の祈りを加えて、シノドスのために祈ります。



新しい船出 北九州地区宣教司牧評議会

第1回 北九州地区宣教司牧評議会 発足

3月26日(日)、第1回北九州地区宣教司牧評議会が、ヨゼフ・アベイヤ司教様をお迎えして開催されたこと、とても嬉しいことでした。ここまでの道のりは、とても険しいものでした。
北九州地区では北九州地区信徒使徒職協議会が中心にな

り沢山の役割を担って盛り上げていました。今回、福岡教区の方針により宣教司牧評議会ができることは、なかなか理解ができず不安なものがありました。私はその不安を抱え、アベイヤ司教様のもとへ足を運んで何度も会議に参加しました。司祭と修道者、信徒の合同会議です。そこで、北九州地区宣教司牧評議会の規約が完成し、船出が整ったときは安堵と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この規約をもとに、北九州地区信徒使徒職協議会の話し合いが始まりました。いろいろな意見が出ました。今までの形からどうしても脱皮できない、どうしてもこのままではいけないのか等、さまざまな意見、想いを出し合いました。その結果、2022年度を

もつと教会を盛り上げるため、コロナ禍でお休みしていた教会学校を再開したいと依頼されました。昨年7月に説明会を実施して20人が集まり、8月から1回目の教会学校が始まりました。初回は残念ながらから子どもも3人、その上、10歳以上も歳の差があり、勉強の内容をどうするかスタッフ同士で悩みながらも、これからは支えていく子どもたちが元気に学んで教会を盛り

もつて信徒使徒職協議会を終了しました。2023年度から、宣教司牧評議会になりました。時代の流れだと感じております。
第1回の会議で、エフェソの教会への手紙4章1〜13節が読まれた後、司教様から宣教司牧方針とその評議会への強い思いが語られました。
その思いを受け、地区長の下町豊重神父様(行橋・豊津教会主任)を中心に協力し合い歩んでいこうと思いまし

また設立した意味を分かち合うことしかできておりませんが、北九州地区が宣教司牧方針にならない、新たな発展ができるかは、評議員だけでなく信徒皆の思いが不可欠です。北九州地区宣教司牧評議会が、元気に発展するために、皆が真剣に今までの生活と向き合い、不安を乗り越え新しい方向に向かっていくことが大切だと思います。それぞれの生活の中で、祈りつつ行動していきましょう。
湯川教会 山田 公生

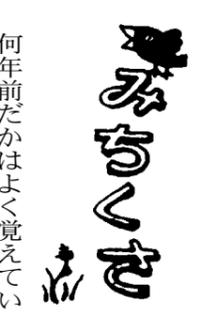
時の話題

子どもたちの笑い声があふれる教会

もつと教会を盛り上げるため、コロナ禍でお休みしていた教会学校を再開したいと依頼されました。昨年7月に説明会を実施して20人が集まり、8月から1回目の教会学校が始まりました。初回は残念ながらから子どもも3人、その上、10歳以上も歳の差があり、勉強の内容をどうするかスタッフ同士で悩みながらも、これからは支えていく子どもたちが元気に学んで教会を盛り

立てていくことを願って続けました。
次第に人数も増えて、12月のクリスマスは10人以上の子どもの前で披露して好評でした。また、復活祭には「エツグハント(聖句が書いてある卵を取り、そのことばの聖書の箇所を当てる)」で大変盛り上がりました。
4月からは近くの光丘教会から声をかけていただき、教会学校を通して子どもだけだけでなくリーダーの交流も始まります。子どもたちのあの明るい声が再び教会に響きはじまりました。

吉塚・南粕屋教会 主任 寺浜 亮司神父



何年前かとはよく覚えていないが、聖地エルサレムで聖週間を過ごす巡礼に参加した時のことを鮮明に覚えている。聖木曜日の主の晩餐では、同行の神父のアイデアで、参加者全員でそれぞれの足を洗い合った。聖金曜日には現地の各留で十字架の道行きを行い、ドミニコ会の修道院の主の受難の儀式に与ることができた。徹夜祭はベネディクト会の修道院で復活のローソクからもらった火をともし、その明かりのみで荘厳な主の復活に与れた。そのいづれの夜も、ホテルに戻る夜道、夜空には煌々と輝く満月があった。エルサレムでの満月はことさらに大きく見えた。これはこの時だけでなく、聖週間はいつも満月なのだ。復活祭の日にはクリスマスと違って毎年移動する。春分の日を過ぎて最初に満月になる週の次の日曜日と定められている。改めて自然の季節の移り変わり、法則に従い、旧約からの伝統とも相まって、主の復活が祝われるのは天地創造の神の摂理とも言えよう。アッシジの聖フランシスコは「兄弟なる太陽、姉妹なる月よ」と祈る。自然の中で神を賛美する彼の姿は、地球環境の悪化に向かうこの時代に思いなおしを迫っているようだ。月は自分で発光することはないけれど、地球から38万キロも離れているのに太陽の光を受けて暗い道を照らし出す。クリスマスは太陽と星が主人公だが、復活祭の夜は太陽でなく月が主人公といってもおかしくない。復活の光と月の光。輝く光を受けて、今度は一人ひとりが周りを照らす光となっていくことを主は望んでおられるに違いない。(A)

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

福岡教区宣教司牧方針を受けて

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて、具体的な活動を紹介しています。「宣教司牧方針」は右記QRコードからご覧になれます



宣教司牧方針の具体化—実践と継続のために—

昨年度、いくつかの小教区に出張して、「みことばの分かち合い」について学習会を行いました。西新教会では主日のミサ後、三回にわたって「みことばである聖書の読み方」を案内しました。キリスト者にとって信仰の書である聖書は神のみことばであり、みことばを通して神を信じ表明する（実践する）ことが信仰告白です。「みことばの分かち合い」は、日常の中でみことばを実践するための聖書の読み方なのです。



西新教会での聖書の分かち合い

教区報1月号にヨゼフ・アベイヤ司教様は、「教区方針の第一の柱、つまり『出向いていく教会となる』を、今年目標として実現していきましょう」と呼びかけられました。宣教司牧方針の1・①つまり、「小教区でみことばの分かち合いグループを作る」の具体化の一環として、多くの皆さんが参加できるように、年間行事を配慮しながら主日ミサの後、みことばについての学習会の企画を考えてはいかがでしょうか。その実現に協力させていただくために、私は小教区に出前をします。ですが、学習は第一歩に過ぎず、その後、共同体で話し合い、現状に合わせた形で実践することが必要です。大切なのは一回だけでなく、継続的に実施していくことなのです。

去年8月から毎月第4木曜日、大濠カトリック会館で「みことばのお弁当」というタイトルで、みことばの黙想と分かち合いを行っています（詳細は4面に）。どの養成も「継続的かつ定期的」に実施することが必要不可欠です。みことばの分かち合いもそうです。打ち上げ花火のようなイベントではなく、線香花火のような過程なのです。

大濠カトリック会館・宣教養成センター責任者 レナト・フィリピーニ神父

聖土曜日、4月8日夜、カテドラル（司教座聖堂）大名町教会で、ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）司式による「復活の聖なる徹夜祭」が執り行われた。この徹夜祭は、光の祭儀、ことばの典礼、成人の洗礼式、感謝の典礼の4部から構成される。最初に「光の祭儀」で、司教は復活の大ろうそくを祝別。「キリストの光」と唱えらるる中、復活の光の



復活の大ろうそくを祝別する司教

この後、大名町教会では2人の洗礼式が行われ、式後、主任司教の中村彰神父は「短くてもお祈りを毎日してください。祈りは神様との挨拶です。日常生活に挨拶がなくなると、味気なく寂しいでしょう」と祝いの言葉を贈った。翌4月9日（日）、カテドラル大名町教会において、復活の主日のミサが、ヨゼフ・アベイヤ司教司式で捧げられた。奉納も再開されたミサには、500人ほどの信徒が集まり、閉祭では3年ぶりに「よろこびうたえアレルヤ」を歌い、皆で主の復活を祝った。ミサ後、大名町教会1階に「大名町書店『ぶどうの樹』」がオープンし、多くの人でにぎわった。



大名町書店「ぶどうの樹」を祝別する司教

主は今生きておられるカテドラルでの復活徹夜祭 復活の主日

※アベイヤ司教の復活の主日の説教は、下記QRコードからご覧いただけます。

洗礼のめぐみをいただいで



洗礼の水を受ける吉岡さん

10代の頃から性別や貧富の差、能力主義や環境破壊などに空虚感を持ちながらもなんとか折り合いをつけてきました。そうした中、宗教画を通して聖書に出会い、イエス様の言葉や行動に衝撃を受け、目が覚めた思いがしました。空っぽだった心の穴が次第に閉じ、温かいものを感じるようになりまし。そして、大名町教会の入門講座に参加し洗礼を授かりました。洗礼名を選ぶ際、通っていた仏教系の学校にマザー・テレサが訪れ「愛は言葉ではありません。愛は与えることです」との力強い言葉を思い出しました。当時「愛は与えること」をよく理解できませんでした。これからは、信者として神様の御心に従い、愛の修煉に励みながら生きていこうと思えます。

【武蔵ヶ丘教会（主任 平田三好神父）ヨゼフ・秋月 穂高】振り返ると、洗礼を受けるまでは、緊張と不安の連続でした。それは、私の周りの



白い衣を受けた秋月さん（右）

方々が心から神様を慕っておられ、熱心にお祈りされている姿を見てきているからでした。「自分のように未熟な者が洗礼を受けてもよいのか」という気持ちや焦りも生じていました。しかし、神父様や多くの皆様が、変わらず丁寧で温かく、優しく迎えて下さることで、緊張と不安が拭われ、自信をもって洗礼式に臨むことができました。本当にありがとうございます。これから共同の皆様が、そして、神様と共に歩めることに、喜びと期待で胸が満ち溢れています。この気持ちを生涯忘れず信仰を強く持ち続けていきたいと思えます。

【手取教会（主任 櫻井尚明神父）クリストファー・松永直樹】2021年1月に初めて手取教会を訪れました。人生が上手くいかず、無力感に苛まれ電車通りを歩いていると教会が目に入ったのです。誰もいない聖堂の最前列に座っていると涙が溢れました。私にとってキリスト教は近くにあり、どこか遠いものでした。本渡で生まれ8歳まで天草で育ち、進学を機に長崎市で8年間生活。映画「ベン・ハー」で感動した神様の御業、趣味のバイクで観光に訪れたカトリック教会で毎回感じる安らぎ。キリスト教に馴染み深い土地に住み、惹かれながらも、自身の信仰として捉えていかなかったのです。しかし2年前に全てが変わり、歩みを進め、遂に入信の秘跡を受けました。導いてくださった皆様に感謝の気持ちがいっぱいです。今後は神様がそばにいてくださる確信を胸に、強く生きる所存です。

【西新教会（主任 山元眞神父）ヨゼフ・武田 丈夫】今年で80歳になられた武田さんは、旅立ちの準備をしながら人生のまとめを考えておられました。先に奥さまは洗礼を受けておられ、ご主人も受洗することを望んで祈っておられました。カトリック信者になることを直接に勧めたことはありませんでした。入信の秘跡（洗礼・堅信・聖体）の準備は山元神父が西新に異動したことを機に始まりました。何十年も前に出会って来たことに気づかれました。入信の準備は武田さんの人

生を最初から振り返ることから始まりました。今までのさまざまな出来事、多くの方々との出会いを振り返ると、初めから主が共にいられたことに気づき、最期まで、その主について行くことを望まれて受洗されました。



洗礼の水を受ける武田さん

【大江教会 献堂90周年 記念ミサとお祝いの餅まき】初夏を思わせる清々しい好天に恵まれた主の復活の祭日に、天草の大江教会では、献堂90周年を祝う御ミサと、ミサ後に餅投げが行われた。大江教会は、1933年3月25日、当時の主任司教ガルド二工神父の指導のもと、多くの教会建築に尽力した鉄川与助氏の手により建設、献堂された。建設に当たっては、開けた便利な用地も検討されたが、「信徒の生活の場に教会」とのガルド二工神父の強い要望により現在の場所になったと聞いている。苦しい生活のなかでの資金繰りや建設機械資材運搬手段が十分でなかった頃に思いをはせると、その苦労は私たちの想像を遙かに

超えるものだったろう。信仰の復活を感謝し、ささげられた教会に響いた祈りの声を感じながら、時を超えて心を合わせ祈る幸せを感じる事ができた。名もなき多くの恩人や信徒の方々にあらためて感謝し、信仰の伝達とすべての人の救いを祈る時となった。最後に、都会では目にする事が少なくなった、建物の完成を祝うための紅白の餅投げが行われ、献堂当時に思いをはせながら喜びを分かち合った。

【福岡教区人事異動】北九州地区地区長 寺浜亮司師（吉塚・南粕屋教会主任）

【計報】イエスのマリア・アスタ中吉 エミ 修道女

【福岡地区地区長】寺浜亮司師（吉塚・南粕屋教会主任）

【計報】イエスのマリア・アスタ中吉 エミ 修道女

サンパウロ 福岡宣教センター

不動産全般/売買・賃貸・管理 ほんでもお問い合わせください (株)ジャパン・スマイルか

総合建築業 森山工務店

草苑 カトリックのご葬儀

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会⑬

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第13回は、オブレート会です。

オブレート会
(けがれなきマリアの献身宣教会)

創立者ウジェーン・ド・マズノは1782年フランスの貴族の家に生まれました。フランス革命の影響を受け家族と共にイタリアに亡命し、そこで司祭になります。国だけでなく教会を取り巻く状況は、精神的にも物質的にも荒れ果てていました。キリストの価値観の再建が大切と考えた創立者は、1816年1月末にオブレート会を創立します。最初は、わずか5人の小さな会であったため、司教区立のプロヴァンス地方だけで働く会でした。その目的は会員の共同生活、地方教会での宣教の指導とエクサンプロヴァンスの青少年のための使徒職活動でした。しかし、創立者はこの活動をプロヴァンス地方だけではなく世界に向けていきました。

創立者
ウジェーン・ド・マズノ



1826年2月17日にはローマから正式にオブレート会として認められました。創立者はやがてマルセイユの司教に任命され司教区の刷新にも関わります。それでもオブレート会の為に絶えず力を注ぎ、会士たちはヨーロッパを中心に、カナダ、南アフリカ、スリランカなどに派遣され世界中に広がっていきます。今では約3600人の司祭と修道士が活躍し、活動を支援くださる方々とともに福音宣教に携わっています。

創立者は1861年5月21日に神の元に召され、マルセイユのカテドラルの祭壇の下に埋葬されています。1995年12月3日にヨハネ・パウロ2世により列聖され、今なお会士たちの模範としての役割を果たし続けています。

会員は、派遣されている場所にそれぞれ「貧しい人」がいて、その方々とともに「福音」(よろこび)を伝えあうことを使命とし、日本ではいくつかの分野で活動しています。まず、小教区での司牧と宣教活動が挙げられます。福岡教区では古賀教区で司牧しています。教育にも係わっており、小教区に付属する5つの幼稚園ではモンテッソーリ園として幼児教育に携わっています。

若者の養成、召命のための援助者、同伴者としての役割、在日外国人・難民の支援、そして社会的に貧しくされた方々への働きにも力をいれています。教誨師、プロライフ、カリタスでの活動など、今の教会のニーズに応えていくことを使命としています。

オンダップ・ベルナルド神父

シスターの召命
喜びの終生誓願式

厳律シスター会
伊万里の聖母修道院



厳肅な雰囲気の中、誓願を立てるSr.中島

3月20日(月)・聖ヨセフの祭日)暖かな陽光に桜がほころび始めるこの日、マリア・ベルナデッタ シスター中島(当修道院チャプレン)による共同ミサが捧げられました。司教様は、シスター中島が

この日に至るまで、家族を初めとして多くの人々に支えられてきたことに感謝するように、そしてなによりも、主であるイエス・キリストが、いつもどんなときにも共にいてくださることを忘れずに奉獻生活を送るよう励ましの言葉を述べられました。また、今日の福音の中で、聖母マリアと聖ヨセフが、イエスを必死で探したように、修道者は必死で神を探し、神とつながる生き方を深めて、すべての人のために、そして現代社会で苦しむ人々のために祈るようにと力強く語られました。

誓願によって、その贖いのわざに参与することを示すためです。こうして、人々の祝福と励ましの中に、シスター中島はキリストの後に従って神の子になる道を歩み始めました。どうぞ、お祈りください。

カノッサ修道女会
大牟田修道院



皆さんの満面の笑みに囲まれる喜びのSr.清田(中央)

2023年3月25日(土)神のお告げの祭日に、大牟田教会でヨゼフ・アベイヤ司教司式のもと、シスターマリア清田陽子の終生誓願式が行われた。聖堂内に響くオルガン伴奏の入祭の歌で、侍者、立願者、司祭、司教が入堂し、緊張した面持ちと喜びのうちに開祭された。

聖母マリアが「私は主のの身に成りますように」と言われたことから、司教は説教の中で、三つの修道誓願(清貧、貞潔、従順)について説明された。そのあと諸聖人の連願の時、立願者は床にうつ伏せになって祈っていた。「あの時、私の体全体に、先唱の神父様の声、司教様とシスターの方の声、皆さまの声が響きました。聖人たちも祈っている、ここにお招きできなかった方々も祈ってください。その祈りに包まれて私は一歩を踏み出すことができる」と立願者は感じていた。そして喜びにあふれて誓願文を読み上げた。その後シスターたちの感謝の歌「マゴニフィカト」が歌われ、新立願者への司教の祝福の祈りが続いた。閉祭では、カノッサ修

道女会の創立者マダレナ・カノッサ賛歌が歌われ、聖堂は大きな喜びに包まれた。この誓願式にオンラインで参加された方々から「その場にいらるよう感動して祈りました。おめでとうございます」

久留米信愛短期大学の閉校にあたって

2023年3月、久留米信愛短期大学は55年の歴史に幕を閉じました。短大は1968年に保護者や地域の要望に応え、食物栄養科を設けて出発しました。その後、幼児教育学科、生活文化学科(のち情報社会学科、ビジネスキャリア学科)等が併設され、地域が求める幼稚園教諭保育士、栄養士等々の養成に取り組みできました。長年にわたり教育研究に尽力してきましたが、近年は学生確保が困難な状況が続く閉校を決定しました。これまでの卒業生は約8500人です。卒業生たちは、現在も地域社会に貢献し「自己を他者に活かす」という信愛の精神を継承してくれています。

久留米信愛では数年前から修道会の方針に従って、「信愛ひろくプロジェクト」を推進し、その一環として男女共に学びの踏み切りしました。短期大学の閉校にあたり、新たに時代と社会に貢献するありかたを模索した結果、短大の校舎を活用し、不登校など様々な理由で学校に通えない生徒や

この言葉があった。カノッサ修道女会としても久しぶりの終生誓願式で、この恵みを頂いたことをたたえ、だ神に感謝するのみである。院長 Sr.奥園恵美子

ウクライナ

平和ミサ

3月19日(日)、カテドラル大名町教会での定例の英語ミサ(16時)が、「ウクライナに平和を」を意向にヨゼフ・アベイヤ司教の司式で行われた。ミサには、福岡在住の黒川カリーナさんがウクライナから避難してきたご両親を伴い、画家のリディア・ザレツカさんが一緒に避難して



久留米信愛短期大学でキリスト教の精神に基づいた教育が行われていたように、これからもより貧しいもの、恵まれないものに神様の愛が伝わるような取り組みを続けていきたいと思っています。理事長 Sr.横田君代

きた息子さんと参加した。聖歌隊はウクライナの国旗を表す黄色と青色の服を着て出迎えた。アベイヤ司教は説教の冒頭で、「カリタスジャパンを通してウクライナ支援に感謝します。1年が経った今も大変な状況が続いています。ミサにはウクライナの方が参加していますので、一緒にウ

☆10歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法 南野森(著・編集)



希望を失わないよう、ともに祈る(右5人:ウクライナの方たち)

広告掲載をご希望の方は
下記までお問い合わせください
福岡教区本部事務局 広報部
電話 : 092-522-4059
メール : cdf-kouhou@nifty.com
※この枠で1回(ひと月)5,000円の献金(目安)をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

広報室からのお願い
皆様のベストショットや、イラストをお寄せください。撮影された写真や書き溜めたイラスト(カトリック関係のもの以外でも)など大歓迎!教区ホームページや、教区報の挿絵、教区内(小教区、修道会、関係各所含む)配布の刊行物などに使用させていただきます。※作品は誰でも使用出来る「著作権フリー」の素材としてご提供をお願いいたします。
(問合せ)カトリック福岡教区 広報部
Email : cdf-kouhou@nifty.com ☎ 092-522-4059

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか
URL : http://www.st-mary-med.or.jp/

FPO 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

年間目標 出向いて行く教会となる

福岡教区ハンドブック2023 発行

ハンドブック2023は、現在随時発送中です。各小教区でお受け取りの上、ご活用ください。

- ◆典礼暦、教区・地区の主な行事が一目で分かるカレンダー。小教区・委員会で集いや行事を計画するときに便利です。
◆《信徒の心得》では秘跡や教会生活の基本を知ることができます。
◆《祈り》《ゆるしの秘跡の受け方》《霊的読書(レクチオ・ディヴィナ)》の手引きも掲載。個人やグループでご活用ください。
◆掲載されているミサ時間は変更になることもあります。

※スマホやPC用にPDFによる配布も行なっています。詳細は、各小教区にお知らせを配布いたしますので、ご覧の上お申し付けください。

第80回 福岡典礼聖歌研修会

[日時] 6月25日(日) 14時から
[場所] カトリック浄水通教会
[内容] 「主日の答唱詩編」「新しいミサの式次第歌唱」
[講師] 深堀 純氏
[参加費] 感謝献金
[問合せ先] TEL092-541-3730 松山
※マスク着用・状況により中止・典礼聖歌集持参



みことばのお弁当

昨年度に続き、今年度も「みことばのお弁当」が開催されます。今年度のテーマは「主の祈り」です。

日時：4月27日からスタート全10回
毎月第4木曜日 10時～13時
場所：大濠カトリック会館
第1回目「私たちにも祈りを」(ルカ11・1)

※お弁当は各自持参

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板 会合と催し

5月のこよみ

大名町書店「ぶどうの樹」オープン

4月9日(日)ご復活の主日に、カテドラル大名町教会内1階に「ぶどうの樹」がオープンしました。キリスト教系書籍、一般書籍、CD・DVD、聖品、修道院製菓などを取りそろえて、皆様のご来店をお待ちしております。ぜひお立ち寄りください。



正面入り口 店内の様子

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：聖性への招き
日時：5月11日(木) 10時～15時
内容：聖シャルル・ド・フーコー
指導者：C.クラウディオ神父(聖ザベリオ宣教会)
次回：6月8日(木)
内容：三位一体の聖エリザベト
指導者：S.フランコ神父(聖ザベリオ宣教会)
問合せ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX)0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

- 6日(土) 水俣教会司牧訪問
↑E.デイキン(2005年 人吉教会)
7日(日) 復活節第5主日 八代教会司牧訪問
↑トマス須賀澤公男(2016年)
↑T.キルケニー(2018年)
9日(火) 福岡カトリック神学院・会議
11日(木) 常任司教委員会(東京)
13日(土) 高遊原教会司牧訪問
↑R.ハー(2013年 古賀・光丘教会)
復活節第6主日 世界広報の日(献金)
健軍教会司牧訪問
↑J.フィネティ(2001年 美野島)
15日(月) ↑G.ケルクマン(2018年 泰星学園)
16日(火) 福岡教区幼児教育連盟
↑ミカエル中浜一男(2005年 浄水通教会・事務局長)
17日(水) 淳心会・研修会指導(姫路)
21日(日) 主の昇天 武蔵ヶ丘教会司牧訪問
↑J.マカティ(2019年 笹丘教会)
23日(火) 第1回教区全司祭集会・大名町教会
25日(木) ↑L.グロージャン(2006年 八王子)
26日(金) 聖フィリポ・ネリ司祭
27日(土) 聖アウグスチノ修道会・司祭叙階式 司式(カテドラル大名町教会)
28日(日) 聖霊降臨の主日 二日市教会・献堂式 司式
30日(火) 幼児教育連盟
31日(水) 聖母の訪問
[6月]
1日(木) 常任司教委員会(東京) 聖ユスチノ殉教者
司祭生涯養成委員会(東京)
2日(金) ラウダート・シ委員会(東京)
↑ヨセフ松永久次郎司教(2006年)
3日(土) 聖カロロ・ルワンガと同志殉教者
↑V.マテオ(2002年)
4日(日) 三位一体の主日 唐津教会 堅信式
■ゴシックは司教日程

福岡

内容詳細は問合せ先にお尋ねください。感染症の状況によっては開催が中止となる場合があります。

福岡地区召命を共に祈る会(日時) 5月16日(火) 13時30分(場所) 大名町教会小聖堂・1Fロビー(問合せ先) ☎092・921・4532 山口
福岡チエナクルム(日時) 5月17日(水) 10時(場所) 大楠教会(問合せ先) ☎090・5021・5907 菊池
師イエス祈り会(日時) 5月19日(金) 10時(場所) 高宮教会・小聖堂(問合せ先) ☎090・7468・3631 西田
福岡ホスピスの会「がんばる」を通して人生を語る会・がんばる外来「ぬくみカフェ」5月27日(土) 14時～16時半(場所) サンパウロ福岡宣教師センター13階*参加費5000円(問合せ先) ☎090・1162・6395 柴田
聖霊による刷新・福岡祈りの集い(日時) 毎週月曜日11時～12時30分(場所) 大名町教会1階講堂(問合せ先) 092・521・2503 蓮尾
美野島司牧センターホームレスの方に温かい食

北九州
北九州召命を共に祈る会(日時) 5月11日(木) 14時(場所) 小倉教会(内容) 谷口尚志神父(水巻教会主任)司式によるミサと茶話会(問合せ先) ☎0949・24・9905 藤井
熊本
熊本地区召命を共に祈る会(日時) 5月15日(月) 9時50分(場所) 浦上教会(内容) 浦上尚志神父(水巻教会主任)司式によるミサと茶話会(問合せ先) ☎0949・24・9905 藤井

聖母月に思い出す、マリアさまとの幸せな思い出です。「トミはマリア...うるわしき君が笑(え)まい、ああ我ら深く慕いまつる」(W)

編集後記

5月のゴールデンウィーク。今年は感染症の規制もなくなり、各地は人出で賑わいが戻ると予想されています。私は4人兄弟の長女で下に弟が3人います。家族での外出時は、父が上2人の弟の手を引き、母が一番下の弟をおんぶしますが、荷物があると母の手はふさがります。「口ザリオを握っていないさ。それはマリア様と手を繋いでいるのと一緒だから」と言われ、私ははぐれないよう、手に跡が残るくらいギュッと握りしめてついて行っていました。おかげで一度も迷子になったことはありません。

私たちと一緒に おはなしませんか?
メール: hanahanahimawari2020@gmail.com
☎: 080-4735-6971 (9:00-21:00)
※対応できないときもあります。
※原則1回30分です。
LINE 右記 QRコード
「ぶろじえくとHana」
ぶろじえくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口
セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話 080-2694-4182
受付時間 月～金(祝日を除く)
10:00～12:00 13:00～16:00

ミャンマー出身の若者たちと祝った初めての復活の主日ミサ

フランシス・ブ・リン神父(聖ドミニコ会・箱崎教会)(ミャンマー)

2023年4月9日復活の主日、福岡県在住のミャンマーのカトリック信者が、カトリック箱崎教会に集まりミサを祝いました。若者たち7人と彼らの友人で未信者の1人が参加しました。復活祭での集まりを計画して、オンラインで参加者を募ると20人以上が集まりました。そして、ロザリオや祈り、聖書の分かち合いを繰り返した後、復活の主日に初めての集会が実現しました。残念ながら仕事の都合で全員の参加は無理でした。午後1時に箱崎教会に集合し、歌の練習をし、赦しの秘跡を受け、ミャンマーと彼らの身内のために皆で祈りました。2時半からのミサ終了後は、彼らが帰りを急いでいたため教会で歓談する時間が取れず、JRの駅まで送って夕食と一緒にしました。普段は仕事に追われて教会に行けない彼らが、復活の主日のミサを祝い、赦しの秘跡を受け、聖体を拝領し、神様への感謝と霊的安らぎを得て感動したであろうことを強く確信しました。私は、彼らに、これまで自分が犯した罪や弱さをイエス様の死に重ね合わせて回心し、これからの人生をイエス様の復活によって新しく生きようという信仰を継続するために、いろいろなサポートが必要であることも分かりました。仕事に関するさまざまな困難を経験しながらも強くなり、常に神様に頼るようになると励ましました。次回はもっと多くのミャンマー人たちが参加できることを期待しています。



また、次回も集まりましょう! (中央 ブ・リン神父)